

会社が向かう方向性の研究

株式会社小泉製作所
小泉俊博 Koizumi Toshihiro



◎ 2つの商品の制作工程を、(株)小泉製作所の前田さんから伺いました。

Zen Bell Timer アプリについて社内で行ったこと

従業員の方々にベータ版を配布、体験してもらい（本社従業員 20 人中 13 人参加）、気になったところなどをヒアリング。ユーザー的視点かつ、「たまゆらりん」を作っているからこそその拘りたい部分（音や見た目など）の意見を聞くことができた。意見を反映し、改良してリリース！

ゆらりん開発エピソード

社長から 50 センチくらいのキジの羽とスケッチを渡され「これを使って卓上型風鈴を作っ
てほしい」などと言われる。スケッチは、ガラスのステムのような脚のついた 1 つのお椀の中
に羽が 1 本立っているイラスト。スケッチの通りお椀型で試作を作る。機構を試行錯誤して試
作作りをする。キジ羽が大きく倒れてしまい鳴らないなど、失敗の繰り返し。1 つのお椀では
なく、2～3のお椀が打ち合う機構だとうまくいくのではないかと社長からスケッチを渡され
る。様々な太さのバネ線を用いて試作するが、自立せず失敗。社長からアメリカンクラッカー
みたいな球体でやってみてと提案。球体に近いベルを作り試作。やはり強度が足りず自立せず
失敗。だがここで、小さな球体でもいい音が鳴ることに気が付く。たまたま、商品開発室を整理
しているときに過去の試作品をみつける。分解して中に球を入れてみたり遊びながら試して、
起き上がりこぼしの仕組みの風鈴のアイデアが閃く。

デパートのバイヤーさんとの商談会が行われる。小泉社長と営業担当者が参加し、「いま卓上
風鈴を開発している」という話をしたら、バイヤーさんから興味を持たれ、ヒアリングすると「リ
アルな鳥の羽は良くない、夏らしい薄い水色などの風受けがついているのがいい」とアドバイ
スをいただく。キジ羽をやめて、羽のような風受けを付ける機構で進める。最初は球体の頭頂
部がへこんで羽を固定するデザインで考えていたが、加工上難しいため球体から生える形で羽
を固定できるデザインを再検討、試作を進め、初期ゆらりんが完成。

安次富さんに見てもらい「プロダクト製品なので羽は抽象的なほうが良いのでは？」「金具を
検討しては？」などアドバイスをもらう。また、使用したお客様から「もっと大きい音で鳴ら
ないのか」と指摘をうける風受けの、スリット部分のデザインを修正し、構造も見直し、さら
に風で揺れやすく音が鳴りやすい新生ゆらりんが完成。

発売以降、風鈴はもちろん、季節を問わずインテリアとしてもお客様に使っていただけている。